

本年5月15日に実施した当社の自社株買いの手法（ASR取引）に関するQ&Aについて

当社が5月14日付で発表し、翌15日に完了した350万株の自己株式取得（以下、自社株買い）のうち、100万株の自社株買いに採用した手法に関して、その手法や効果につきまして当社の意思を正しくお伝えできていないことに起因して、株主・投資家の皆様方より多くのご意見・ご質問を頂戴しております。

つきましては、本手法に関するQ&Aを作成しましたので、以下の通りご案内申し上げます。

■ASR取引を採用した経緯

当社は100万株の自社株買いに際し、SMBC日興証券（以下、日興証券）の提案を受けて「ファシリティ型自己株式取得（Accelerated Share Repurchase）（以下、ASR取引）」の手法を採用いたしました。これは米国では自社株買いの手法として既に普及している一般的な取引です。

「ASR」は和訳すると「迅速な自社株買い」であり、「買付枠全てを即日買い切ることができる」点に特徴があります。会社が市場で買い付けを行う（いわゆる通常の）自社株買いと今回のASR取引とは、市場の需給バランスに与える影響や経済効果に相違はございません。

当社としましては「買付枠全てを即日買い切る」確かな意思をお示しすることが株主・投資家の皆様方のご期待にお応えするものと考え、ASR取引を採用いたしました。

■ASR取引に関するQ&A

Q：ASR取引は一般的な取引ですか。

A：日興証券によれば、米国では既に自己株式取得（以下、自社株買い）の手法として一般的に実施されており、日本でも今後普及していく可能性がある取引、と言われております。

Q：通常の自社株買いとASR取引の違いは何ですか。

A：大きな違いは、ASR取引では自己株式の買い取りが即日完了し、買付枠全てを買い切る意思を取引でお示しできることにあります。

Q：なぜ自己株式の買付が即日で完了したのですか。

A：日興証券が株式を借りて、その全株式をもとに、東京証券取引所のシステムを利用して5月15日付の当社の自社株買いに応募（当社に売却）したことによるものです。

Q：日興証券が株を借りた目的は何ですか。

A：当社が実施する自社株買いに申し込むことを目的に株を借りております。

Q：日興証券は借りた株を返す必要がありますか。

A：日興証券は借りた株を返す必要があります。そのため、日興証券は現在、自己の勘定で市場から株式買付を行っていることを認識しております。

Q：日興証券は誰から株を借りたのですか。

A：有限会社ミント（以下、同社）から株を借りました。同社は当社大株主の一社です。

Q：同社も株を売ったということですか。

A：売ってはおりません。日興証券は借りた株数を自己の勘定で市場から株式を買い付けて、後日、同社に返却する契約となっております。

Q：日興証券が同社から借りた株を市場で売却したり第三者に貸したりすることはありますか。

A：絶対にございませぬ。日興証券は借りた全株式で既に当社の自社株買いに応募しております（当社が買い取っている）ので、市場で売却したり第三者に貸したりすることはございませぬし、不可能となっております。

Q：日興証券はどのくらいの期間で市場から株式を買い付けて、いつ同社に株を返却するのですか。

A：自社株買いに応募した翌日（5月16日）から9月20日までの間に市場から買い付けて、同社に借りた株を返却いたします。

Q：会社が市場で買い付けを行う通常の自社株買いと今回のスキームとは、市場に与える買いインパクトは同じということですか。

A：市場に与える買いインパクトは同じと考えております。

Q：なぜ新株予約権を発行しているのですか。

A：自己株式買い取り時の価格と市場買付価格を後日精算することを目的に発行しております。

Q：自己株式買い取り時の価格より株価が上昇した場合には、日興証券が損をして当社が得をすることになりませんか。

A：株価が上昇した場合の自己株式買い取り時の価格と市場買付価格の差額につきましては、第4回新株予約権を日興証券が行使することにより、当社は差額分の自己株式を日興証券に譲渡し精算いたしますので、両社に損得は生じませぬ。

Q：株価が上昇した場合（第4回新株予約権を日興証券が行使する場合）、通常の自己株式買い取りと経済効果は同じですか。

A：経済効果は同じです。通常の自己株式買い取りにおいては、株価が上昇すれば同じ金額で買える自己株式数は減少します。第4回新株予約権の行使では既に関取った自己株式の中から差額分を日興証券に譲渡いたしますので、当社の自己株式数は減少します。このため経済効果は全く同じとなります。

Q：自己株式買い取り時の価格より株価が下落した場合には、日興証券が得をして当社が損をすることになりませんか。

A：株価が下落した場合の自己株式買い取り時の価格と市場買付価格の差額につきましては、第5回新株予約権を日興証券が行使することにより、当社はその差額分の現金を受け取り精算しますので、両社に損得は生じませぬ。

Q：株価が下落した場合（第5回新株予約権を日興証券が行使する場合）、通常の自己株式買い取りと経済効果は同じですか。

A：経済効果は同じです。通常の自己株式買い取りにおいては株価が下落すれば同じ株数を買い付けるために必要な現金は減少します。第5回新株予約権の行使では既に支払った現金のうち差額分を日興証券から受け取るため当社の必要な現金は減少します。このため経済効果は全く同じとなります。

Q：これらの精算取引はいつ行われるのですか。

A：日興証券が市場買付を完了させ、8月1日から9月24日までの間に当社と日興証券はこれらの精算取引を行います。日興証券は借りた株を同社に返却し、取引が完了いたします。

Q：つまり、会社が市場で買い付ける通常の自社株買いと、今回のASR取引では、市場に与える需給や経済効果は同じということですか。

A：その通りです。通常の自社株買いで買付枠全てを買切る場合とASR取引は市場に与える需給バランスや経済効果は全く同じとなります。

Q：効果が同じなのに、通常の自社株買いではなくなぜ複雑なASR取引を選択したのですか。

A：自己株式の買付が迅速に、すなわち「即日完了」できることから買付枠全てを買い切る当社の意思を市場の皆様にご理解頂くことができるものと考え選択いたしました。

Q：ASR取引のリリースが複雑すぎてわかりにくいのですが。

A：株主・投資家の皆様方に当社の取り組みを正確にご理解いただくことを目的として、ASR取引に関する内容を詳細に開示した結果、リリース内容が自己株式買い取りの本来的な趣旨とは関係のない、当社と日興証券が後日精算を実施するために必要な新株予約権（第4回、第5回）スキームに関する記載が大半を占めてしまいました。結果として、わかりにくくなってしまいましたことをお詫び申し上げます。

Q：ASR取引の効果や当社の意思が投資家に正しく伝わっていないのではないですか。

A：当社がより十分な説明を行っていなかったために、株主・投資家の皆様にご本件の効果や当社の意思が正しく伝わらなかったことに関しまして、心よりお詫び申し上げます。

今後は株主・投資家の皆様により正しくわかりやすい情報を発信するようIRとして努めてまいります。今回のご説明文書がご理解の一助となれば幸甚でございます。

ご不明な事項がございます際には、当社お問い合わせ窓口 (<http://faq.tsuburaya-fields.co.jp/>) までご連絡を頂戴できれば幸いです。

今後とも当社をご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上